

【論文提出者】 社会文化科学研究科 人間・社会科学専攻  
フィールドリサーチ領域  
ムヒナ ヴァルヴァラ

【論文題目】

Sociology of Cross-National Marriage :

A Case of Russian-Speaking Wives in Japan

(国際結婚の社会学—日本におけるロシア語系女性の事例—)

【授与する学位の種類】 博士 (公共政策学)

【論文審査の結果の要旨】

本論文は国際結婚 cross-national marriage について、日本人男性と結婚したロシア語系女性（ロシアおよびウクライナを含む）への調査に基づき、移民研究の視角から論じたものである。従来、国際結婚は異文化間結婚 cross-cultural marriage と混同され、文化的差異がコミュニケーションや結婚生活などにもたらす影響について論じられることが多かった。それにたいしてムヒナ氏は、移民研究の知見と自ら行った調査の結果をふまえつつ、異文化間結婚と同一視できない国際結婚の特異性について、さまざまな観点から論証している。

第1章では、戦後日本の移民・外国人政策を辿りながら、単純労働者の受入れを原則的に認めていない日本において、外国人女性にとってホスト社会の男性との結婚が合法的な移住・定住のための主要なルートの一つとなっていることを論じる。第2章では、法務省の外国人登録者数にかんする統計データなどを用いつつ、日本におけるロシア語系住民の特徴を明らかにしている。一般にロシア語系住民は文化的観点から「欧米系」と見なされるが、ムヒナ氏は統計データから、むしろフィリピンやタイといった「アジア系」に近いことを明らかにし、国際結婚を異文化間結婚と同一視することの誤りを論じている。第3章では、ロシア語系女性たちへのインタビュー調査に基づき、彼女たちの国際結婚の選択動機として、経済的格差、移民政策、性別人口構成、ジェンダー・イデオロギー（性別役割）などがあることを明らかにした。第4章では、ロシア語系女性たちの参与観察に基づき、国際結婚を規定する三つの次元—個人（配偶者）・受入れコミュニティ・国家—の相互連関について考察し、国家という次元の存在が国際結婚を異文化間結婚と異なるものたらしめていることを論じている。第5章では、国際結婚とトランスナショナルな結婚 transnational marriage との差異を論じている。前者は異なる二つの国に存在する異なる民族のメンバー間の結婚であるのに対し、後者は異なる二つの国に存在する同じ民族のメンバーどうしの結婚であり、日本におけるロシア語系女性たちの場合、前者のみが当てはまることを明らかにしている。第6章では、結婚移住者の社会統合の問題を論じている。ムヒナ氏は、日本政府の移住・定住にかんする制限的な政策のため、女性移住者たちの配偶者との出会いの機会や定住の機会、さらには積極的な社会参加の可能性が狭められていることを指摘し、その解決のためにヴィザや国籍にかんする開かれた政策の実施を提言している。

本論文の独創的な点として、第一に、これまで異文化間結婚と混同され、もっぱら文化的側面が論じられてきた国際結婚について、移民研究の視座を導入することで、文化的要因のみならず社会的要因、とりわけ、移住者の受入れや統合にかんするホスト国家の政策と密接に関わることを実証し、国際結婚研究において移住と政策に注目することの重要性を説得的に論じたこと、第二に、移住者たちの移住・定住実践と受入れ国家の政策との双方向的視点から国際結婚を論じる分析枠組みを提示し、国際結婚の理論化の可能性を示したこと、を挙げることができる。これらの点により、今後のさらなる事例研究はもちろん、国際比較研究や政策的な応用研究への道を切り拓いたことは、高く評価できる。ゆえに、本論文は博士論文として適格であると判断する。

### 【最終試験の結果の要旨】

平成25年1月22日に行われた口述試験の結果、申請論文が博士の学位にふさわしい水準にあり、かつ研究者として十分な能力があることが確認された。よって本委員会は一一致して、ムヒナ・ヴァルヴァラ氏が博士（公共政策学）の学位を授与されるに相応しいものと判断する。

### 【審査委員会】

主査	松浦	雄介
委員	慶田	勝彦
委員	中川	輝彦
委員	牧野	厚史
委員	千田	俊太郎